

# PHD LETTER

## 46

PEACE・HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

1993・3

PHD運動とは1962年より約20年間、ネパール、東南アジアを中心とした発展途上国で医療活動に従事した岩村昇博士の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和づくり(Peace)健康づくり(Health)を担う人材をつくる(Human Development)運動を世界中にひろめることを目的として、1981年からはじまりました。

- タイツアーレポート.....2・3P
- 研修生レポート.....4・5P

発行:財団法人PHD協会  
 編集人:草地賢一  
 住所:〒650神戸市中央区元町通5-4-3 元町アーバンライフ202  
 TEL.(078)351-4892 FAX(078)351-4867  
 郵便振替:神戸1-29688 財団法人ピー・エイチ・ディー協会  
 定価:100円



(東北タイ カラシン県)

村の小学校を訪ねると  
 入学前の小さな子供たちのクラスがあった。  
 窓から光が差し込む床で  
 みんな思い思いの姿勢で何やらお勉強。  
 これで先生が何も言わないところに  
 妙に感心。

### 草の根の人々を訪ねて

パプアニューギニアの首都ポートモレスビーから東南に約2時間のフライトでソロモン諸島国の中心ヘンダーソン空港に到着します。

1992年9月20日私はガダルカナル島にある首都ホニヤラに初めて降り立ちました。

「連合軍ガダルカナル上陸50周年」と書かれた横断幕が空港のみならずホニヤラの町のここかしこに掲げられていました。何となく撃退された日本の肩身が狭いような思いを感じました。

今回の訪問の目的はPHDの南太平洋への関わりをもう一歩広げ、パプアニューギニア(PNG)に次ぐ拠点づくりのための調査でした。

数年前PNGのパプア側の村で開かれていた太平洋教会協議会の年次総会に偶然ゲストとして列席した折、ソロモン諸島国の教会を代表していた一人の女性から私は多くの参加者の前できびしい批判を受けたことがありました。

「あなたたちは太平洋戦争で私達の村を侵略し、村人の生命を奪い地域を壊した。それだけでなく村の女性に子供を生ませて捨てた。今また40年も50年もたつて同じような事が繰り返されているのを知っているのか。今、日本の漁業基地に数カ月単位で駐在する漁師達と私達の国の若い女性の間の子供ができています。父親は帰ってしまった。あなたが先程のあいさつの中で日本のキリスト者として侵略の罪をわびたから信頼して今繰り返されている事をあえて伝えた。一度その眼でソ

### ソロモン諸島国での新しい動き

ロモンを訪問し何かおきているかしっかり見て欲しい」。

その時以来私の頭の中に「ソロモン」という地名は忘れられないものとなりました。

私は到着後ソロモン諸島国教会協議会を訪問し、又日本大使館を訪ねました。目的は先述の問題の現状と、この小さな国のNGOの動きを知るためでした。

教会協議会では主にNGOの現状を、日本大使館では進出企業の現状を質問しましたが、必ずしも明確な答えは得られませんでした。しかし大使館のソロモン諸島国人スタッフから良い人を紹介されました。その名はMr.アブラハム・バエニシア。彼は同国の高等教育機関の責任者を辞して今は「Solomon Islands Development Trust = SIDT...ソロモン諸島国開発機構」というNGOを設立し、国内だけでなく、太平洋諸国の草の根の人々の間で大変有名な人でした。

私がかねてからSIDT発行の機関紙『LINK』の購読者でもあったので、この団体の良い動きはいくらか知っていました。

『「ソロモン大洋」(日本の大洋漁業とソロモン諸島国政府の合弁企業)の漁業基地周辺に生まれている日本人を父に持った子供の問題は私が最初に提起した。この問題の解決も含めて私達が取り組んでいることは、村の人々の多様な面での自立である。何よりも自然と共生したくらしの確立。適正規模の発展。食事の改善とそのための家庭菜園づくり等々。これ

らの実現のための、人権教育、環境教育、宗教教育等々の実践。これを実現していくため私は特にパウロ・フレイレ(南アメリカの著名な教育者)の教育理念、文法論をもとにSIDTを創立し、さらに国内外のNGOを結合し、太平洋NGO協議会を組織している」とアブラハムは言明しました。

ある日の午後、彼は私を自分の家に案内してくれました。私がそこで見せられたものは、質素な小屋、2年かけて石コロだらけのハゲ山の一角を彼が鉄の棒一本で拓いた家庭菜園、これに基づく文字通り大変質素な生活でした。

Simple life with high thinking, 晴耕雨読!



アブラハム氏がこの棒一本で拓いたスパスガーデン。(家庭菜園)

ソロモンを発つ前日、私は彼とじっくり話し合いました。私は短かい滞在で充分見えなかった村人の生活とSIDTの実践活動を来年もう一度見たい。村に滞在してPHD研修が意味を持つかどうか話し合いたい。合意が出来れば研修生を招きたい」。

彼の快諾を得て私は9月26日さわやかな思いでホニヤラを飛び発つたのでした。

総主事 草地賢一

### 感謝して使う水

塩月伊作 神戸市・専門学校勤務

それぞれの村の家庭滞在中に考えさせられたことのひとつに、水の存在があげられる。どの家庭でも、毎朝、共同の井戸から汲み上げ、トイレの横に置いてある大きなかめに移すのが一日の日課であったようだ。それで身体を洗い、洗い物をし、トイレの使用後に流す水として使われていた。村の人達にとって水というのは、他の場所から運んでくるという労力を通じて確保されるものであり、自分達にとって必要な分だけの水を感謝をもって使うものであると感じた。

### 自分の行為の地球への影響

泉 晶子 西宮市・大学生

毎日大量のごみを出し、その処理に悩んでいる日本とタイの村では、生活環境があまりにも違うので村の生活をそのまま日本に取入れられないが、改めて無駄を省く事の大切さを感じた。

近頃地球環境への関心がかなり高まっているが、自らの行為一つ一つが地球に影響を与えている事を各個人レベルで実感しなければならないと思う。

### 村へ電気がついた

田中五郎 兵庫県波賀町・農業・研修指導者

村は変わりつつありチェンマイより北西部のタホタの村までの間の1/3の道路は舗装されており、今年(92年11月)村の一部には電気が入り、テレビのある家庭もありました。

稲作は2年続きの干ばつ被害、現金収入の少ない北部農村地帯にも電気が入り、農村からの出稼者がバンコクに出て中には売春婦となり最後にはスラムに流れ込むと聞きました。

### 言葉をこえて

早川晶子 京都市・短大生

意思の疎通では、言葉がすべてじゃないんだ、ということもわかった。暑いので、「水浴びはしないのか」を動作で示したり、「もっと食べろ」と食事を勧めてくれたりと、数々の気の遣いようだった。又、ステイ先の女の子達に、折り紙の折り方を教えてあげると、必死になってつるや、やっこさんを折ろうとしたり、花の折り方も教えてもらった。

こうやって、いざ文にしてみると「それがどうした」と言われるかもしれない。でも、これは実際に体験して感じてみないとわからないことだと思う。

### 心の中に重く残った出会い

覚張浩永 宝塚市・託児所勤務

イサーン(タイ東北部)の村でキャッサバを栽培している畑を見学した。イモのように根の部分が食用で、家畜用のエサとしてヨーロッパへ輸出される。苗を植えていた1人の女性が私に面と向かい、半ばやりきれなさ、半ばあきらめの目で、こう訴えてきたのだ。「あなた方日本が羨ましい。もし生まれ変われるのなら、日本人になりたい。貧しい国、タイ」。この女性との出会いが、重く心の中に残っている。



絹織物の作り方をきくカレンの人たち(左)と村の人。(東北タイ、クックカイ村で)

### 日本の子供、可哀想

広岡正人 兵庫県福崎町・農業・研修指導者

イサーンで小学校を訪問、日本で見られるような登校拒否や暴力、いじめ等が行われているかとの問いに、校長は「その様なことはおきていない、遅れている子は、出さる子が教え合って共にはげまして学んでいるから」と。うらやましい。

また、子供達が披露してくれたあの素晴らしい民族舞踊、あれまでやるには男の子、女の子一緒になって稽古も大変だと思ふが、環境の貧しい中であって、のびのびと音楽や舞踊を楽しんでいる。進学、受験勉強と競争社会の渦中にある、日本の子供達が何か可哀想に見える。

### 2度目のタイで考えた

浜地まや 神戸市・小5

一度目に「人々はやさしく、自然の多い平和な所」と思った。でも今度キャッサバやユーカリの植林が村の人を苦しめていることを知った。でもこれでタイが嫌いになったわけではない。このことを知ってますますタイで生活してみたくなりました。そして村の人とこの問題にとりくんでみたい。

### ソディーに寄せられる期待

赤木まゆみ 神戸市・大学生

ムシキーの学校は私立で、小学校で年間300B、中学校で700Bかかる。それ以外に寮に入るなら米150kgと400Bが必要。しかし、一日に女性で30B、男性で70Bの収入しかなく、父兄の大きな負担となっているのが現状である。そのために布のグループ活動に期待を寄せているのだ。

速い時代の動き

### 速い時代の動き

大下弘人 高山市・高校生

どこの村も、のんびりしていて平和そうでした。父親がよく自分が子供だった頃の事を話していましたが、こんな様子だったのかなあと思いました。とすると日本も、ほんの4~50年前まではこんな時代だったという事になるけど、そう考えると時代の動きはずいぶん速いものだと思います。

### 豊かさの履き違え

足立祥子 滋賀県草津市・施設勤務

自然と共存するとはどういうことか、豊かな生活とは何か、人間として大切なことは何なのか。日々の生活の中で無理せず自然に体の奥にしみついている村人達。その生活を不自然なものに変えている波の発信地、日本で私は生活している。豊かさを履き違えた日本の中でしか生きることを体験していなかった自分に気付いたのである。

### 地域から時代へ

北山敏和 和歌山県田辺市・教員

タホタでもムシキーでも米やタロイモだけの農業から酪農などを絡めつつ高地の冷涼な気候を利用したような新しい商品作物栽培への転換が模索されていくにちがいない。しかしそのためには、村の人々が資本や技術、流通経路の確保、販売先の開拓などこれから多くの難関を乗り越えて行かなければならない。まさに、それは地域性を基盤にした生活から踏み出し、『時代』という大海に身をゆだねるための試練であるようにも思える。

### カレンの人にかわりて詠める...

浜地律知 神戸市・歯科医・研修生滞在家中

昨年に続いて行われた村人同志の交流はお互いによい体験になっているようだ。カレンの人は森林伐採によって荒れた土地に驚きながらも、そのような環境の中での様々の工夫を目にして、何かと学んだようだ。

— 荒れ果てし山を嘆きて百人一首、持統天皇にならひてカレンの村人の詠める  
伐採すぎて 土やせたらし 白妙の  
キャッサバ干すてふ イサンのはげ山

## 第3回タイフォローアップスタディツアー報告

9回目を数えるタイツアー。去年実現した農民交流の2回目を含めて、北タイから東北タイへというコースで研修生の村を訪ねました。

この季節には珍しい雷雨の歓迎をうけ、一行はチェンマイに到着。東北タイから来てくれた9期生サウエーさん、同じ村のソンサクさんと合流し、翌日に雨の中をカレンの村へ向かいました。

ポッケオ村タホタで、4期生ウィラトさん、5期生コマさん、翌日ムシキー村では3期生ブリチャーさんと布のグループのペリポーさんを変えてのミーティングをしてそれぞれの村の様子、生活のこと農業のことなどを聞きました。サウエーさんからカレンの生活について、「電気がないから欲しいものはあまりない。テレビやラジオもなく、その方がいい。水が豊富で野菜がたくさんできると思う。食べるものがたくさんあるようだ」との意見。電

気が入るとおのずと次から次へ欲しいものが増えてくるということを実感させられる一瞬でした。

今回はカレンの村人が東北タイを訪問しました。ポッケオとムシキーから3人ずつ、3月に訪ねているメサリアンから4人の総勢10人となり、大人数での夜行バスの旅。

東北はサイナワン農民協会で、バムルンさんの説明を受けてから、ナカダオ、クックカイ、ウォンウィエンの3つの村に分かれての村での滞りが始まりました。村人たちも交えて隣りのサコンナコン県の山へ国王のプロジェクトで作られたという役立っていないダムを見学し、キャッサバ畑の植付けを見に行きました。その後のミーティングでカレンの人から感想をきくと、バムルンさんの家の下の養殖池は循環がよく考えられていてよい、協会についてはグループとして、またいるんものを混ぜてブタの飼料作りをしているのが

よい、カレンでも参考になるとのことでした。それぞれ相手のいいところを見ることができた様子。距離の問題があるけれど、今後もおつきあいを続けたいと積極的でした。また、私たちに對して例えば土壌を荒らし、農民が困るユーカリの植林が生むチップが日本のOA用紙になっていることにあらわれているように日本の資本、企業の過剰な進出をやめるように働きかけてほしいとの意見も出ました。

以下、内容を参加者のレポート抜粋でお届けします。

92.12.23~93.1.2  
14名参加  
コース：大阪~チェンマイ~ポッケオ村~ムシキー村~カラシン県サイナワン町~バンコク~大阪

タイの通貨B(バーツ) 1バーツ5円





### 主役は村の人たち

ムシキー村で1年ぶりのミーティング。去年はペリポーさんの帰国直後(91年9・10月短期研修生で来日)で予想以上の布が並べられたのに、その勢が見られず。その理由は、用意された沢山の布のすべてをPHDが引取らなかったことからメンバーの意欲が失われたとのこと。張り切って織ったのに買ってもらえなくて、スネていた。そこで再度、数量的なことや品質のことなど、また「手で織っていること、草木染であること、カレンのデザインであること」がソディーの認めている布なんだよということを説明しました。

作れば全部売れるという思いが強くなっ

ているようで、逆に簡単に早く織ってしまうのはよくない、時間がかかっても良いものなら認められるということが大切で、おばあさんたちから難しい模様、カレン伝統のものを教えてもらって勉強するのが伝え残していくのにもいいですねと、こちらの思いを伝えました。

今回、手にしたムシキーの布は、糸に工夫がされていて、縦横での糸の太さの違い、1本どりの糸で織ったもの、1本どりと2本どりの組み合わせといろいろ見ることができました。布単品ではバツとしないもの、B級品は加工の工夫をすることも大切、と付け加え、メサリアンにあるもう1つのグループにも、3期研修生プリチャーさんを通してこれらのことを伝えてもらうようにしました。

また布のグループの1人がタイ国内農民交流に参加し、東北地区の絹の織物を見る

ことができました。そこで布を織るのに大切にしていることは、昔からのやり方を維持して、子孫に伝えていくことだと返事が返ってきて日本人が言うより、同じタイに住む人の言葉だけに効目があったのではないかしら。

そして日本にいる私たち、ソディーの方ですが、動き出して4年目、これからどうやって広げていくのか、どういう支援の仕方がよいのか、年末から話し合いが頻繁になってきました。主役はあくまでも村の織り手たち。こちらからの一方通行では本来のソディーでなくなってしまうでしょう。実際には難しいことですが、村のグループとのやりとりを密に、またあせらず息長く、彼女たちとおつきあいしてゆけるといいのではと思います。そして、定例会をしたり、バザーの準備や出店先の開拓を進めたりとできることから工夫をしようとしています。

## 研修生レポート

### 東日本研修旅行

今年の東日本研修旅行は、グループを2つにし、日頃の専門研修外の日本の社会について学ぶ、会の運営の実践学習、各地の支援者への報告を目的に実施しました。

Aコースにはウィンさん、ハスマヤニさんが参加、深沢小学校、日本福祉大学、岡崎六名小学校(元PHD職員の土井さんが迎えてくれました)が初めての訪問。

Bコースはシャーンタさん、セニフィタさんが参加し、長野県北部が新しい訪問先となりました。特に浅科村の信州農村開発史研究所では江戸時代初期の用水路建設により農業がさかんになった歴史を学びました。またこのコースではシャーンタさんが腕をふるって、福井、新登町小、憩の家でスリランカ・カレーを作り、大好評でした。

今年の研修生は交流会のときに歌や踊りを披露するより、ともかくしゃべること、各地に強烈にアピールしました。

### Aコース 92.11.15.~27

川崎交流会~東京・自動車総連~船橋YMCA~東京YMCA~柏YMCA~松戸RC~松戸交流会~横浜・カラバオの会~東京交流会~甲府交流会~山梨教会~富士・吉原交流会~逗子・池子の緑を守る会~鎌倉交流会/深沢小~静岡交流会~岡崎・六名小~美浜町・日本福祉大~和歌山・海友会

### Bコース 92.12.3.~15

滋賀YMCA~敦賀北小・原発見学/敦賀国際交流協会~福井丸岡町竹田小~福井県国際交流協会~金沢交流会/新登町小/パナナグタン例会~長

野戸隠村・富永宅/子供の森幼児教室~浅科村信州農村開発史研究所~伊那・信大学生交流会~飯田・飯田東中/高陵中~岐阜坂祝町・中濃教会~豊田・婦人ボランティア/憩の家交流会~岐阜中原村・ゴバルト~トヨタ工場見学~豊田市国際交流協会



新登町小学校では児童たちにスリランカ・カレー作りを指導。

### 西日本研修旅行

#### 93.1.17~2.7

大分・下郷農協~熊本蘇陽町・蘇陽高/地球平和道場/水俣・相思社~熊本YMCA~佐賀・地球市民の会~福岡・春日東教会~宗像・東郷教会/東郷信愛幼稚園~北九州YMCA/アジアを考える会/西南女学院~庄内町・虹の会~金田町・福吉伝道所~広島・牛田教会/あやめ幼稚園/アジアに学ぶ会/広島平和記念資料館/広島交流会/高陽高~広・上下町交流会/甲奴中/三良坂町・仁賀小~口和町・口南小~松江交流会~木次乳業見学~鳥取・倉吉交流会~岡山東栗倉村・工房

年明け1月中旬からは恒例の西日本研修旅行です。ここでは主に日本に抱えている様々な社会の矛盾の一端にふれ、人間の為の社会とは、開発とは何かを学習しました。

過去、石炭産業の凋落に伴い多数の失業者を出した筑豊では日本の急速な経済



地球平和道場で、土壌浄化法を実験で学ぶ研修生。

成長の陰で切り捨てられる人々のいたことを知りましたが、研修生にとっては苦しい生活の中で力を合わせてボランティアをしていた人々の話が自分達に重なって心に残ったようです。

広島では原爆の悲惨さにショックを受けながらも「広島の人々も痛みに遭ったけれど、私の国の人も痛みに遭った」と述べ、あらためて彼らの国に日本が残した傷跡の深さが浮彫りになりました。

水俣については話を伺った患者さんへのある研修生の手紙を引用します。「水俣の問題は日本の問題だけじゃない。でも世界の人々の問題です。再び水俣の問題を起こさせまい、という水俣の人々の思いが彼らを通じてアジアの村々にも伝わっていくことを願っています。

この他にも下郷農協での組合についての学び、地球平和道場佐藤さんからの土壌浄化法、木次乳業での食についての学びが大いに参考になりました。また今回は初めて、島根~鳥取がコースとなり、新しい方にもお目にかかることができました。東・西とご協力いただいた皆様ありがとうございました。

## 10期生はともかくしゃべる!

兵庫県内を中心に沖縄県から岐阜県までの幅広い地域での研修を実施してきた研修生たち。それぞれの研修テーマはもちろんのこと、たくさんの人との出会いの中から学び視野をひろめています。

### ティン・アン・ウィンさん(ビルマ)

東日本研修旅行~広岡史郎宅(兵庫・福岡町)~ふえろろ村塾(小野市)~西日本研修旅行~若林孝典宅(岡山県・東栗倉村)

### シャーンタさん(スリランカ)

東日本研修旅行~ふえろろ村塾(小野市)~渡辺省悟宅(丹南町)~西日本研修旅行~藤本敏孝宅(加美町)~氷上郡酪農農業協同組合(氷上町)・中野宗嗣宅(春日町)

### ハスマヤニ(ヤニ)さん(インドネシア)

東日本研修旅行~緑町母子保健センター(兵庫・緑町)~月輪定弘・ヒデ子宅(安富町)~尾崎食品株式会社(神戸市)~久保昌子~西日本研修旅行~五色町健康福祉総合センター(五色町)

### セニフィタ(エニ)さん(インドネシア)

東日本研修旅行~神戸YMCA(神戸市)~岡村たえ美(兵庫・三木市)~久保昌子~西日本研修旅行~高砂市保健センター(高砂市)

研修受け入れ先の方からしばしば聞くことですが、今年の研修生はとにかくよく喋ること。教えてもらうだけではなく、出身地域の状況をスライドや写真などを駆使して説明しながら自ら、より内容の濃い研修とすべく努力しています。特筆すべきはシャーンタさん。今ではウィンさんに勝るとも劣らない日本語で積極的に説明しています。

シャーンタさんいわく「1年でスリランカ

ていねいに採卵します。割らないように...ウィンさん。



卵の選別。まじめに見つめるシャーンタさん。



お年寄りにお手伝い。とても慣れていました。ヤニさん。



裁縫上手なエニさん。

の5年分話しました」。議論したら少々手ごわい相手となりました。

最近、研修生との会話で出身地域の生活改善のために何が大切なことなのかについてかなり、理解が深められていることに気が付きます。それは、人間が生きていくために最低限確保されるべきもの、すなわち「食」、「水」、「衛生環境」であるということです。農業を学び、栄養・衛生を学ぶことが、生命を守り健康をつくり出すことに直接つながっていること。

このような人間の身体の仕組み、つまり健康はつくり出されるものであるという基本の

理解が得られてこそ具体的な技術も役立つことと思います。

その上でヤニさん、エニさんは「赤ちゃんが早く死ぬことのないよう、父親が娘の結婚、孫の顔を見ることのできるように」、ウィンさんは「生活改善が何なのかをほとんど知らない村の人に日本で分かったことを時間をかけて分かち合いたい」、シャーンタさんは「アジャンタさんと共に若者からの取り組み、働きかけに努力したい」とそれぞれ意欲を見せています。

## 11期生紹介

スム・ソコム(29歳 男性)  
カンボジア  
タケオ県パティエ郡  
研修内容  
農業改良・協同組合



ムームー(37歳 女性)  
ビルマ  
マンダレー州  
研修内容  
保育・保健衛生



タケオ県パティエ郡農業センターの職員で農業改良普及員。家族は子供二人と小学校の先生のおつれあい。夫婦ともすべての家族をボル・ポト時代に失っている。

タダインシ村にある保育所の保母さん。もの静かな中にきびしさを秘めた保育主任で、しっかりした印象。夫はウィンさんのお兄さんで、彼女以上に喜んでいる。

ノップ・ヴァナ(21歳 男性)  
カンボジア  
タケオ県パティエ郡  
研修内容  
農業・協同組合



トゥンティン(26歳 男性)  
ビルマ  
マンダレー州  
研修内容  
農業・協同組合



生家は極めて貧しく、叔父の家へ養子で出された。地味で大人しいシンの強さを信頼し、叔父は彼に農業を継がせたいとのこと。少年の初々しさを残した素朴な青年。スム君が進める普及活動に呼応する村側の青年。

12年前にウィンさんが身ひとつで村に入った時、一番にやってきた人。以来ウィンさんの右腕として村の生活向上に取り組んでいる。静かなしかし意志の確固とした青年である。

### ホームステイ先・通訳募集

4月より来日予定の次期研修生のホームステイを募集します。93年度は通常の1年間の研修生4名と共に短期研修生が2名来日。ご希望の方、心当たりのある方、ご連絡お待ちしております。

・11期生4名(1年間)男性3, 女性1  
来日後日本語研修のため神戸滞在の2カ月間は毎日、以降研修の合間の帰神時(平均1カ月~5日)のお世話を希望。

・短期研修生(5月より3カ月)女性2  
阪神間での研修が主となるため、期間中はほぼ毎日の滞在となります。研修生の詳しい紹介は次号で。

原則として朝食、夕食、宿泊をお願いします。経費は当協会規定額をお支払いします。

・短期研修生2名については研修時に日本語を英語(又はタイ語、タガログ語)に通訳して下さる方を募集しています。交通費等は協会負担。詳細お問い合わせ下さい。

# 日本をカタる。

1月31日、今日僕は比良山に登ってきました。びわ湖パレイスキー場から始まる縦走路を6時間歩くコースでした。はじめに反対からやってくる人と出会うまでは、降り積もったばかりの雪を踏みかためながら、コースからはずれないように目印のテープをたよりに進まなければなりません。たまには胸まで埋もれてしまうような場所があり、先頭で道をつけていく者は普段の倍の力を使うのです。そうやって仲間を先行して進んでいると、息を整えようとして、立ち止まる時が幾度かありました。荒い呼吸が鎮まると、辺りが静かであったことに気がきます。一番いい所だなあと思ったのは、周りを、枝にこんもりと雪をのせた杉や檜がとり囲む、風の音もしない、森の中にポッカ

リてきた小さなひらけた場所でした。それから、何か寒々しくて、ここにいる樹や熊笹は冷たかろうなあと思ったのは、風が葉の全くない樹の枝を、ヒューと鳴らしていくような、そんな所でした。僕はそんな寒々しい所では、どんなに体が熱くても、心に冷たい厳しいものを感じ、静かで安らいた場所では、雪がいくら冷たくても、心に落ち着きを感じるのだと思います。いや、むしろ人は、その場その場で、周りにある物と共にその場を生きるといってもいいのではないのでしょうか。例えば、寒い冬でも春に備えて小さな芽をつけている樹を見た時、人はその樹と共に、芽吹き、萌え出る者を生きると言えるのではないのでしょうか。心を静めて、人やいろいろな物を含めた相手と向かい合う時、そこには、相対するのではなく、深い言葉を越えた交わり合いが、起こってきます。自然と

そうして向かい合う時には、普段なら見過ごすような、なんでもない草や虫でも、とても大事な、深い背景をもったものとして見えてきます。そこには、何か見守られているとでもいうような背後のものをさえ感じるので。それに対して、僕らが、深く責任を感じるこなしに、作り出し、手に入れ、捨ててしまうような、すぐ役に立たなくなる物と向かい合う時には、見捨てられた、虚しい、何の感情も起こってこないような感じを受けます。自分が、その人、その物と向かい合い、共にその場を生きて、その人、その物の真の在り方を感じることが、今、とても大切だと思うのです。

荒木琢磨

※「日本をカタる」一かがですか。ご意見・ご感想がありましたら、編集部までお寄せ下さい。



## 編集後記

いやはや、もう3年になるのか、私がPHDに出入りし始めてから。あの時私は初々しい学生でした。今でもその初々しさは変わりません。私はこの3年間、行事への参加が主でこのレター編集には殆ど関わったことがありませんでした。3年間もいるのに？と思われるでしょう。私もそう思います。でも今回編集を通し

てPHDに関わることが出来、とても嬉しいです。私がPHDに来たのもひよんなことからでした。最初は緊張して開けにくかったPHDの重いドアも思い切って開けたらみんな笑顔で迎えてくれました。そしてこなしていくイベントを通じ、アジアのこと、布のこと、そして何よりも研修生の純粋な心に触れ、私は大勢の人にもっとアジアを知ってもらいたいと思うようになりました。暖かい心に触れ、私は今までやってこれたんだと思います。これからは、特別な人だけじゃなく全

ての人が何らかの形で、ボランティアというものに携わっていかねばならないと私は思うのです。みなさんがこうしてレターを読んで下さって、PHDに関わっている事も立派なボランティアだと思います。このレターを読んで下さっているみなさん、会ったことはないけど、心は一つです。これからもよろしくお願ひします。

ぶーこちゃん

〈編集メンバー〉  
浅田大輔 穴田雅彦 荒木琢磨 江草マサ子  
鬼塚二三子 柿原登志夫 北原華子 児島章一  
瀬尾江理香 田路佐和子 中山瑞恵 松波めぐみ  
呉麗莉

# PHD NEWS

## 〈会費・ご寄附寄託状況〉

1992年11月	56件	2,077,122円
12月	557件	6,374,139円
1993年1月	222件	2,334,682円
	835件	10,785,943円

以上の通り、多くの皆様より会費とご寄附を頂戴しました。ご協力いただき深く感謝申し上げます。

## 〈Tシャツ、トレーナーに、ラリー・アルカラさん登場〉

好評のアジアマंगा家シリーズ。第4作として、フィリピンNo.1のマंगा家ラリーさんの「アンボおじさん」のキャラクターが加わりました。ラリーさんは日刊紙マニラタイムズに連載中。単行本もでてくる売れっ子です。Tシャツは白地、トレーナーはクリーム地。サイズはいずれもM・L・LL、Tシャツ2千円、トレーナーは3千5百円です。

## 〈大盛況!!インドジャティ〉

12月1日、PHD協会の主催でスマトラの伝統舞踊グループ「インドジャティ」の公演が神戸市内で行われました。今回は89・90年に続く3度目の来神で、笛・太鼓それにタレンボンなど民族楽器の奏でる音楽と、きらびやかな衣装、2時間をかけたメイクなどが舞いをより異国情緒あるものとし、会場は大いに盛り上がりました。なお、公演の様子は毎日放送、サンテレビでも報道され、毎日放送ではエニさんの研修風景なども合わせて放映されました。

## 〈愛知県で市民フォーラム開催〉

「アジア市民フォーラム'93」が5月1～3日の3日間愛知県で開かれます。このフォーラムは今回で3回目。これまでその地区毎に特長のあるフォーラムを開いています。

問い合わせは 〒471 名古屋東区徳川2丁目11-17 「中部リサイクル市民の会」 気付「アジア市民フォーラム'93」事務局へ。TEL(052)931-4134

## 〈ドイツとタイに学ぶ 国際協力研修旅行〉

今日本では「国際化」が叫ばれながら、まだまだ「善意の国際交流」に留まっているようです。「望ましい国際協力」のあり方を、「開発教育」が実践されているドイツのマチと、北タイのムラを訪ねて学ぶ旅です。詳しくはお問合わせを。

期間 1993年6月13日～7月2日  
対象 NGO、宗教、教育、自治体、報道各関係者、10名定員  
参加費 478,000円

## 〈事業報告の会員名簿について〉

12月に会員の皆さんにお送りした「91年度事業報告」の中の会費納入者名簿は、紙面の都合で①91年4月1日～92年3月31日の間に②91年度分としてご納入いただいた方を掲載しました。上記期間前後にご納入いただいた方は、名簿にはごさいませんが、次号、同封の会費記録でご確認いただき、ご理解ご了承願ひます。ご心配おかけしたことお詫び申し上げます。

## ○月×日のPHD協会

総主事 草地 92年夏に講師として参加した兵庫県青年洋上大学に今年も乗船要請あるも、全面禁煙の方針に、これを機に禁煙に踏み切るか否かパイプをくゆらせながら思案。

主任主事 藤野 3月に大阪で他団体と共催の民際フォーラム・コンサートの準備でわか芸能プロモーターに。沖縄の三線奏者新良幸人さん、フィリピンのジャズ奏者トレンティノさんを担当。

主事補 小松 タイツアーの引率で年末おでかけ、正月の休みて気が緩んだか風邪をひき、事務所近くのお医者。うかつにも肩に貼ってあったエレキバンをとり忘れ、バアさん扱いをうけ憤慨。

主事補 吉岡 仕事熱心吉岡君。ウチに帰って、寝てる間も研修生が夢にでてる。ある夜10期生、エニさんとシャーンタさんが結婚するストーリーに、慌ててめさめる。

囑託 柳下 高砂に研修生移動のつきそいで出張。ちょっとヨソイキを着てきたら、総主

事からは見合か、ボランティアの若衆からはデートかと雑される。しかし当人は至ってクール。

囑託 渡辺 年末、ボランティアの若衆と連れだって夜の神戸の街で忘年会。カラオケに繰りだし「花は遅かった」を熱唱。趣味の面でもPHDはレンジが広いこと実証。

日本語手伝いとして登場した蜂谷知子さん、研修生も世話になる兵庫県和田山町大森宅をちょっと訪ねただけで、急拠住み込みで地域の保育園の保母として3カ月働くことに。PHDのネットは恐い。

新規会員・寄付者ご芳名は、個人情報保護のため掲載しておりません。

新規会員・寄付者ご芳名は、  
個人情報保護のため  
掲載していません。